

—スタッフ紹介—

役 職	スタッフ名
部 長	萩野 惠三
医 長	藤井 令央奈
医 員	小池 宏幸
医 長	佐々木 有見子

—概要—

2016年は医師2名の異動があった。森山泰成医師が退職され、和歌山県紀の川市の公立那賀病院から藤井令央奈医師が着任された。西澤哲医師が和歌山県立医大に異動され、同大学から小池宏幸医師が着任された。

佐々木有見子医師は2013年8月から産休＋育児休暇中であったが2016年10月から第2子出産のため再び産休＋育児休暇に入った。このため実質3名で業務を遂行した。

2016年の泌尿器科外来患者数は1日平均66.8名、外来新患者数1日平均4.4名、外来患者数はのべ16,230名/年、外来新患者数はのべ1,068名/年であった。診療実日数は243日/年であった。入院患者数は585名/年(内訳:男性455名女性130名)であった。別表に当科で2016年に施行した手術一覧を示す。主な手術は膀胱全摘除術＋回腸導管増設術4件、体腔鏡下手術(後腹膜鏡下を含む)副腎摘除術、腎摘除術、腎尿管全摘除術)10件、前立腺全摘除術(開腹)40件、経尿道的膀胱腫瘍切除術(TUR-Bt)108件、経尿道的前立腺切除術(TUR-P)29例、経尿道的尿管結石砕石術(TUL)116件であった。

泌尿器科の診療の中心の一つである尿路結石症治療においては近年、体外衝撃波結石破砕術から経尿道的尿管結石砕石術(TUL)をはじめとする内視鏡手術への移行が急速に進んでいる。当施設においても2016年4月の細径腎尿管ファイバースコープ(オリンパス社製P6)の導入により手術中の内視鏡の操作性が飛躍的に向上し、TULの施行が116例と急激に増加した。尿路結石症に対する内視鏡手術による治療は治療効率を向上させ、結果的に治療期間を短縮できるため、今後かなり有望視されている。副腎腫瘍や腎細胞癌、腎尿管癌に対しては副腎、腎、腎尿管摘除術合わせて10例全例が体腔鏡下手術(内訳:腹腔鏡下手術8例、後腹膜鏡下手術2例)で施行された。

—実績—

番号	手術名	2012	2013	2014	2015	2016
1	副腎摘除術(開腹)	0	0	0	0	0
2	副腎摘除術(鏡視下)	1	0	3	0	1
3	副腎摘除術(小切開)	0	0	0	0	0
4	経皮的腎・尿管砕石術(PNL)	0	0	3	2	2
5	体外衝撃波砕石術(ESWL)	6	100	35	14	8
6	腎部分切除術(開腹)	6	5	2	3	0
7	腎部分切除術(鏡視下)	0	0	0	0	1
8	腎部分切除術(小切開)	0	0	0	0	0
9	単純腎摘除術(開腹)	1	0	1	1	0
10	単純腎摘除術(鏡視下)	0	0	1	2	0
11	単純腎摘除術(小切開)	0	0	0	0	0
12	根治的腎摘除術(開腹)	4	5	4	5	0
13	根治的腎摘除術(鏡視下)	2	6	8	6	8
14	根治的腎摘除術(小切開)	0	0	0	0	0
15	腎尿管全摘膀胱部分切除術(開腹)	6	14	9	4	1
16	腎尿管全摘膀胱部分切除術(鏡視下)	0	0	1	2	2
17	腎尿管全摘膀胱部分切除術(小切開)	0	0	0	0	0
18	腎盂形成術(開腹)	0	1	0	0	0
19	腎盂形成術(鏡視下)	0	0	0	0	0
20	腎盂形成術(小切開)	0	0	0	0	0
21	移植用腎採取術(開腹)	0	0	0	0	0
22	移植用腎採取術(鏡視下)	0	0	0	0	0
23	腎移植術	0	0	0	0	0
24	経尿道的尿管砕石術(TUL)	50	51	87	91	116
25	尿管膀胱吻合術(VUR防止手術を含む)	1	1	1	1	3
26	膀胱脱メッシュ修復術	4	0	0	0	0
27	膀胱全摘除術(開腹)	7	13	6	12	4
28	膀胱全摘除術(鏡視下)	0	0	0	0	0
29	膀胱全摘除術(小切開)	0	0	0	0	0
30	尿管皮膚瘻造設術(膀胱全摘除術を伴うもの)	0	0	0	1	0
31	尿管皮膚瘻造設術(膀胱全摘除術を伴わないもの)	0	0	0	1	1
32	回腸(結腸)導管造設術(膀胱全摘除術を伴うもの)	7	13	5	12	4
33	回腸(結腸)導管造設術(膀胱全摘除術を伴わないもの)	1	1	0	0	0
34	新膀胱造設術	0	0	0	0	0
35	経尿道的膀胱腫瘍切除術	98	98	80	104	108
36	尿道形成術	0	0	0	1	0
37	尿道下裂形成術	0	0	0	0	0
38	尿失禁手術(TVT、TOT)	1	3	0	0	0
39	精巣摘出術	1	5	11	19	5
40	停留精巣摘出術(開腹)	0	0	0	0	0
41	停留精巣摘出術(鏡視下)	0	0	0	0	0
42	高位精巣摘出術	5	1	2	4	3
43	精巣固定術(精巣捻転に対する)	0	0	6	2	1
44	停留精巣固定術	7	2	2	3	3
45	停留精巣固定術(鏡視下)	0	0	0	0	0
46	経尿道的前立腺切除術(TUR-P)	55	51	25	36	29
47	経尿道的前立腺核出術(HoLeP)	0	0	0	0	0
48	前立腺被膜下摘出術(開腹)	3	1	1	7	1
49	前立腺全摘除術(開腹)	63	35	36	55	40
50	前立腺全摘除術(鏡視下)	0	0	0	0	0
51	前立腺全摘除術(小切開)	0	0	0	0	0
52	ロボット支援下根治的前立腺全摘除術	0	0	0	0	0
53	ロボット支援下腎部分切除術	0	0	0	0	0
54	ブラッドアクセス造設術	0	0	0	0	0
55	CAPD用カテーテル設置	0	0	0	0	0
56	その他	0	18	12	15	4
	包茎手術					

—今年度の成果と反省点—

2016年の入院患者は585名であり、2015年の636名より51名の減少となった。これは2008年以來、8年連続で増加していた入院患者数が初めて減少に転じたことになる。これは常勤医3名中2名が退職と異動のため一度の交代となった影響が大きいと考えられた。引き続き泉州地域の泌尿器科診療の需要は大きいと実感している。

尿路結石症による閉塞性腎盂腎炎に起因する敗血症治療では、特に救命診療科の先生方と緊密に連携しながら診療することができたため、誠に充実した1年であった。救命診療科の先生方と関係部署のスタッフに心より感謝する。

—来年度への抱負—

地方独立行政法人りんくう総合医療センターは地域密着の病院であるべきであり、泉州地域の泌尿器科診療に対する旺盛な需要に対して、来年度もしっかりと応えていきたい。